

# 母体・胎児専門医を 目指す若手医師へ



大阪母子医療センター  
オリジナルキャラクター  
「モコニャン」



# ごあいさつ

## ～大阪母子医療センターで母体・胎児専門医を目指しませんか？～

母体・胎児専門医は、産婦人科の4つのサブスペシャリティ領域の1つを担う専門医であり、合併症のある妊産婦や胎児に対して専門的な管理ができる知識と技能を備えた臨床医に対して日本周産期・新生児医学会が認定します。当センターは、学会から認定を受けた母体・胎児専門医取得のための研修基幹施設であり、これまでに多くの母体・胎児専門医を輩出しています。

当センターは全国に先駆けて1981年に設立された周産期母子医療センターであり、大阪府における周産期医療の中核施設として、30年以上にわたってハイリスクの妊産婦や胎児の診療を担ってきました。また、OGCS（産婦人科診療相互援助システム）の基幹病院として、大阪府内さらには近畿全域からの母体搬送・産科救急の受け入れやコーディネートに24時間対応しています。母体および胎児への集中的な管理のために母体胎児集中治療管理室（MFICU）を9床運用し、集学的な管理のために新生児科、母性内科、麻酔科、さらに小児外科、循環器内科などの小児系診療科と緊密に連携をとっています。また、西日本全域から対象症例を受け入れ、胎児治療を行っています。一方、診療対象はハイリスク症例に限っておらず、特にリスクを持たない妊産婦の妊娠・分娩管理も数多く手がけています。

当センターでは母体・胎児専門医を目指す若手医師の研修を受け入れています。当センターの診療環境では、専門医を目指す医師にとって十分な臨床経験を積むことができます。また、それぞれに得意分野を持った指導医層が、充実した研修になるように指導します。周産期医療を究めたいという熱意をもった医師からの連絡を待っています。

大阪母子医療センター産科部長 林 周作

連絡先：産科医局 [obst@wch.opho.jp](mailto:obst@wch.opho.jp)

## 2024年実績

- 分娩数 **1856件**（早産 159件）  
多胎分娩 94件 無痛分娩 771件 TOLAC 88件（成功率76%）
- 手術・処置
  - ✓ 帝王切開 464件（帝王切開率25%）
  - ✓ 鉗子分娩 238件
  - ✓ 吸引分娩 45件
  - ✓ 頸管縫縮術 36件
  - ✓ 外回転術 56件（成功率70%）
  - ✓ 胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術（TTTS治療） 36件
  - ✓ 胸腔羊水腔シャント術（胎児胸水治療） 4件
  - ✓ 無心体血流ラジオ波凝固術（TRAPシーケンス治療） 2件
  - ✓ 流産処置 33件
  - ✓ 羊水/絨毛染色体検査 39件/2件

## 2025年度スタッフ

- スタッフ数 常勤 10名、非常勤 5名（卒後6年目以降）



- 所属医局/地域  
旭川医大、愛媛大、大分大、大阪大、高知県、奈良医大、兵庫医大

# 専門外来紹介

## 胎児外来

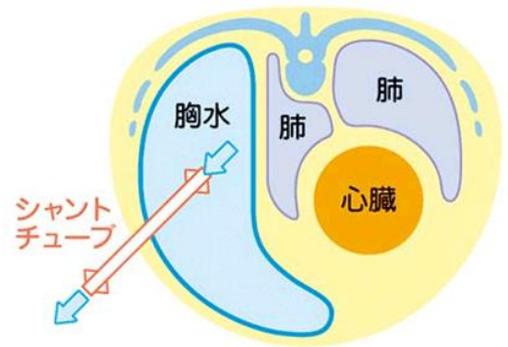
胎児外来では、妊娠初期から当院で管理している症例や他施設からの紹介症例をあわせて、年間500超の胎児疾患症例を管理しています。胎児発育異常（発育不全、過剰発育）、中枢神経疾患（水頭症、脳腫瘍、脊髄髄膜瘤等）、胸部疾患（肺のう胞性疾患、横隔膜ヘルニア、肺分画症等）、心疾患（孤発性の心室中隔欠損症から、エプスタイン奇形や左心低形成症候群などの最重症心疾患まで）、消化器・泌尿器科疾患（消化管閉鎖・狭窄、卵巣腫瘍、総排泄腔遺残等）など、その疾患は多岐にわたります。

新生児科をはじめとする関連各科とのカンファレンスを通して、

出生後の管理や治療法についての知識を深めることができます。

また、特発性胎児胸水に対するシャント術（図）、胎児貧血に対する臍帯穿刺・胎児輸血などの胎児治療や、胎児3D-CT撮像による胎児骨系統疾患の診断など、一般の医療機関では行っていない診療を経験できることが当院の特徴としてあげられます。

胎児疾患を広くかつ深く学ぶことが可能な周産期施設ですので、若手医師の皆様をお待ちしております。



(笹原 淳)

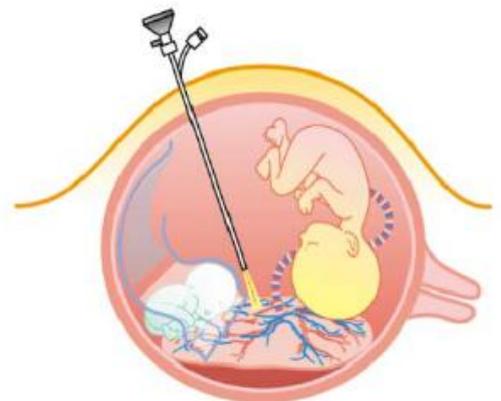
## 多胎外来

多胎妊娠は、当科が最も注力している分野の一つであり、臨床・教育の両面において高い専門性を有しています。年間を通じて100名以上の多胎妊婦が外来を初診し、その多くが当院で分娩を迎えています。これは、当科が多胎妊娠に対して高度な診療体制と豊富な経験を有していることの証でもあります。

当科での研修では、実際の症例を通じて、多胎妊娠に伴う母体・胎児双方のリスク評価、管理方針の立案、妊娠管理の実践など、多胎診療のあらゆるフェーズに関わることができ、理論と実践を融合させた深い学びが得られます。

一絨毛膜双胎に特有の合併症であるTTTS、selective FGR、TRAP sequenceなどへの対応はもちろん、胎児治療の適応判断や実施、経膈分娩を含む分娩管理にいたるまで、幅広い臨床経験を積むことが可能です。

特に胎児鏡下レーザー凝固術（図）を中心とした胎児治療に関しては、国内外の最新知見を踏まえた実践的なアプローチを学ぶことができ、胎児医療に関心のある医師にとっては非常に魅力的な環境です。



(山本 亮)

# 専門外来紹介

## 合併症外来

合併症外来は、糖尿病、高血圧、甲状腺疾患、心疾患や自己免疫疾患等の母体合併症を対象とした外来です。母性内科と協力して診療に当たっています。当院母性内科は、院内の内科医師に加えて、他院から循環器内科、腎臓内科、免疫リウマチ科や心療内科等の応援医師で構成されており、専門性の高い医療を提供しています。

- 高血圧、腎疾患、糖尿病等の妊娠高血圧症候群のハイリスク群に対して予防的低用量アスピリン内服を提案しています。
- 先天性心疾患合併妊娠では、妊娠中、分娩前後を適切に管理するために、循環器内科医師とカンファレンスを行っています。
- 日本人に比較的多い甲状腺疾患では、胎児甲状腺疾患のリスク評価を行い、母性内科と共に薬剤調整を行います。新生児バセドウ病や甲状腺機能低下のリスクのある症例では、小児内分泌科の医師と連携して対応しています。

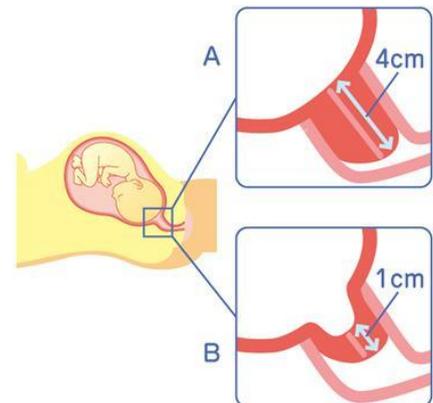
合併症外来では母性内科との協働を通じて、合併症妊娠が増加する中で必要とされる内科的管理を学ぶことができます。

(川口 晴菜)

## 流早産予防外来

習慣流産・不育症と早産既往、妊娠高血圧症候群既往を対象とした専門外来です。

- 習慣流産・不育症の女性には標準的の検査を提供しています。抗リン脂質抗体症候群合併妊娠に対する抗凝固治療導入を担当しています。他院で導入された抗凝固治療の要否判断も担当しています。
- 自然早産既往や自然後期流産既往の妊婦に対し、患者教育、定期的な子宮頸管長スクリーニング（図）、適応者への子宮頸管縫縮術などを提供しています。反復早産のリスク認識、正確な子宮頸管長測定、様々な状況下における子宮頸管縫縮術を学ぶことができます。
- 妊娠高血圧症候群既往の妊婦に対し妊娠初期の再発リスク評価を行い、高リスク者へは予防的低用量アスピリン内服を提案しています。子宮動脈血流評価にあたり、Fetal Medicine FoundationのPE Certificate取得を目指します。



(林 周作)